

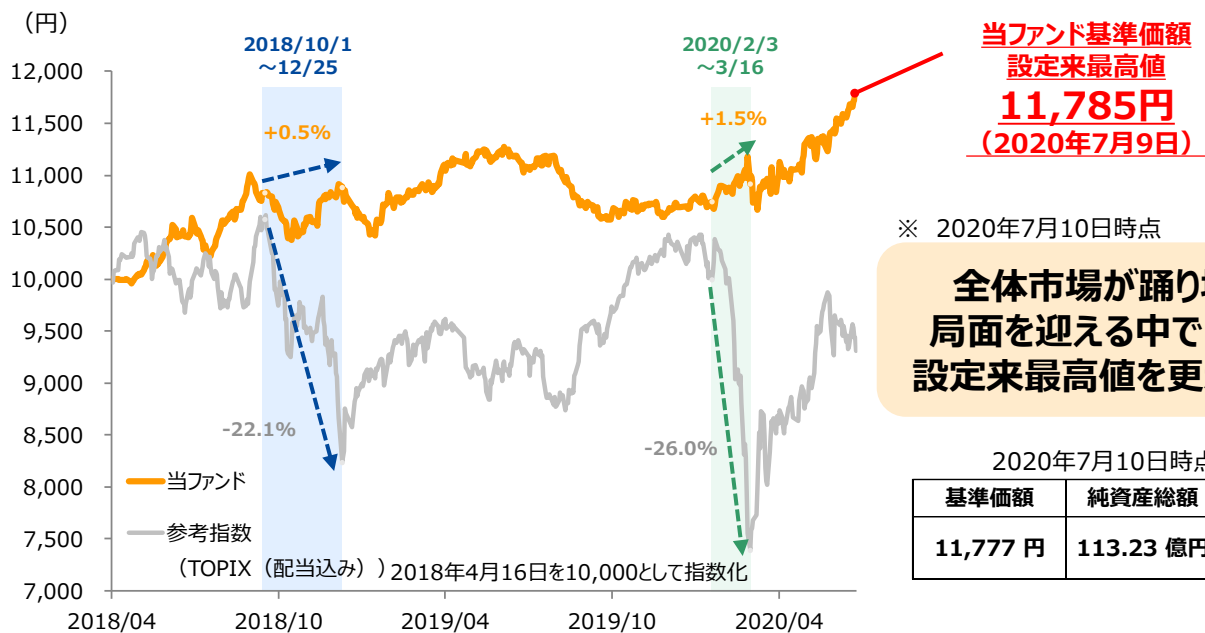
スパークス・厳選株ファンド・ヘッジ型 全体市場が踊り場局面を迎える中、設定来最高値を更新！

当ファンドは設定来、市場全体の変動にも左右されることなく超過収益を獲得しております。

2020年7月10日現在、全体市場が踊り場局面を迎える中でも、基準価額は前月に引き続き、設定来最高値を更新しております。これは、私どもが長期見通しに基づいて厳選した組入銘柄が市場平均を上回って推移していることを示しています。特にコロナショック後の3～6月は、組入銘柄のシマノやキーエンスがリターンの源泉として当ファンドに貢献しています。

引き続き個別銘柄を徹底的に調べ上げ、確信度の高い銘柄に集中・長期投資することからもたらされる運用力を受益者の皆様へ安定したリターンとしてお届けできるよう注意深く運用して参ります。

当ファンドと参考指数（TOPIX（配当込み））の基準価額推移比較 (2018年4月16日～2020年7月10日)



当ファンド設定来のパフォーマンスとリスク・リターン特性 (2018年4月16日～2020年7月10日)

	当ファンド	TOPIX (配当込み)	超過収益
設定来	17.77%	-6.92%	24.69%
年率リターン	6.82%	-2.50%	9.32%
年率リスク	7.10%	18.32%	-11.21%
リターン/リスク	1.0	-0.1	

当ファンド上位5銘柄 (2020年6月30日現在)

順位	コード	企業名	保有比率
1	6758	ソニー	6.7%
2	7309	シマノ	6.2%
3	6861	キーエンス	5.3%
4	6098	リクルートホールディングス	5.2%
5	9984	ソフトバンクグループ	5.0%

※ 基準価額は信託報酬控除後です。

※ 参考指数（TOPIX（配当込み））は当ファンドのベンチマークではありません。

※ 年率リターンは計算期間（2018年4月16日～2020年7月10日）におけるリターンを年率換算しています。年率リスクも同計算期間における日次リターンの標準偏差（年率換算）です。

出所：スパークス・アセット・マネジメント、FactSet Pacific Inc.（2020年7月10日現在）

当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。当資料の正確性及び完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。

マザーファンドで見る個別銘柄寄与度と貢献銘柄紹介

当ファンドのパフォーマンスに寄与している銘柄は、以下の通りとなっています。下記銘柄は、ヘッジ前のマザーファンドのリターンにおいて、どのくらい寄与（貢献）していたかを表しています。

設定来（2018年5月～2020年6月） 寄与度上位銘柄

マザーファンド：+21.47% （※ ご参考 TOPIX（配当込み）：-7.67%）

順位	企業名	寄与度
1	リクルートホールディングス	3.62%
2	シマノ	3.13%
3	テルモ	2.34%
4	(化学)	2.25%
5	(機械)	2.25%

2020年4月 寄与度上位銘柄

マザーファンド：+5.80%

(※ ご参考 TOPIX（配当込み）：+4.35%）

順位	企業名	寄与度
1	ソフトバンクグループ	1.18%
2	リクルートホールディングス	0.76%
3	ソニー	0.67%
4	キーエンス	0.66%
5	日本電産	0.65%

2020年5月 寄与度上位銘柄

マザーファンド：+10.04%

(※ ご参考 TOPIX（配当込み）：+6.82%）

順位	企業名	寄与度
1	シマノ	1.69%
2	(保険業)	1.24%
3	テルモ	1.03%
4	リクルートホールディングス	0.99%
5	キーエンス	0.84%

2020年6月 寄与度上位銘柄

マザーファンド：+3.63%

(※ ご参考 TOPIX（配当込み）：-0.19%）

順位	企業名	寄与度
1	ソフトバンクグループ	0.83%
2	ソニー	0.73%
3	(化学)	0.73%
4	(機械)	0.48%
5	(化学)	0.47%

※ 記載のデータは、当ファンドのマザーファンドである「スパークス・オールキャップ・ベスト・ピック・マザーファンド」の過去の実績をもとに算出したものであり、当ファンドの実績ではありません。また、将来の運用成果等を示唆、保証するものではありません。

※ 寄与度は、当該期間中のマザーファンドの基準価額の変動において、各銘柄の変動がどれだけ影響したかを示したものです。各銘柄の月次の保有比率および株価を基に計算した概算値であり、実際の取引価格やマザーファンドが負担するコスト（売買手数料など）は考慮されておらず、マザーファンドにおける各銘柄の保有期間は異なります。また、これまで月報で公表されていない銘柄は、括弧書きで業種のみ記載しております。

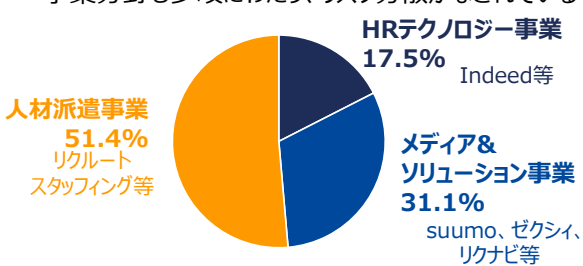
設定来貢献銘柄 第1位 **リクルートホールディングス（6098）**

- インターネット・紙媒体を中心とした複合広告メディア企業。
- 一般的な製造業と異なり、同社のビジネスは元来、事業継続をしていく上で、多額の設備投資を必要とするものではない。従って、企業買収に伴う資本支出がなくなれば、営業キャッシュフローの大部分がフリーキャッシュフローとして残ることが想定される。

セグメント別売上収益

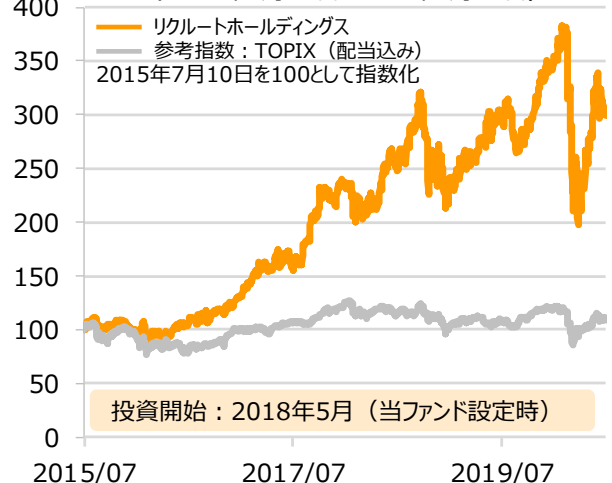
(2019年)

事業分野も多岐にわたり、リスク分散がなされている



株価推移（5年間）

(2015年7月10日-2020年7月10日)



※ 上記は当ファンドへの理解を深めていただくためのご参考資料であり、特定の有価証券等を推奨しているものではありません。また、過去の実績等は将来の結果を保証、示唆するものではありません。

※ 記載された意見や予測などについては、資料作成時点での見解を示すものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

※ 参考指数（TOPIX（配当込み））は当ファンドのベンチマークではありません。

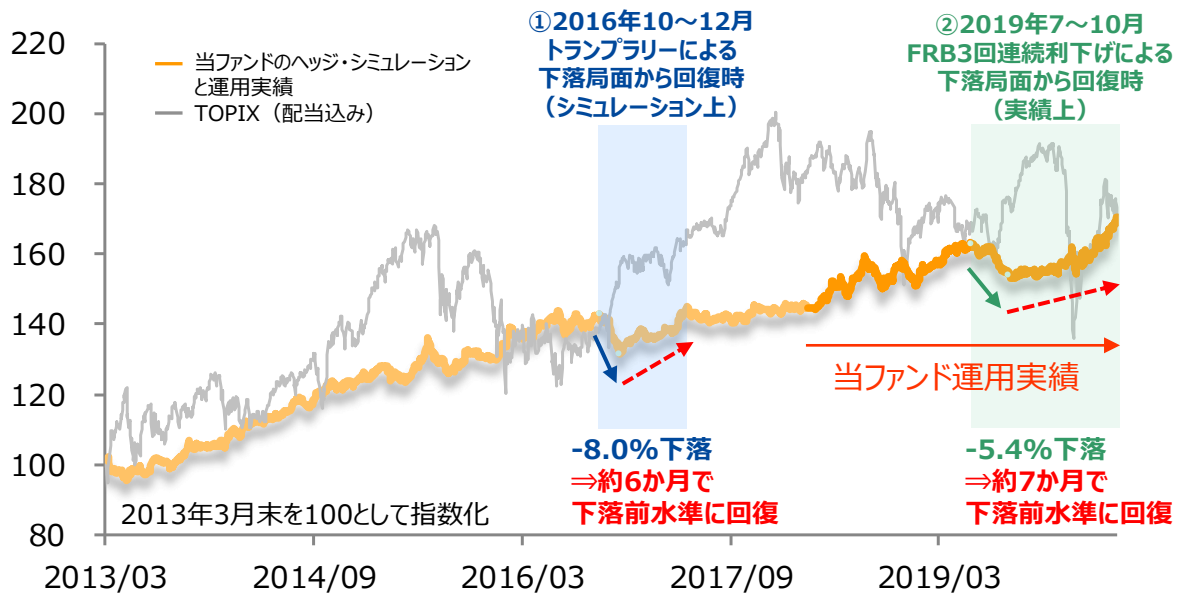
出所：スパークス・アセット・マネジメント、FactSet Pacific Inc.（2020年7月10日現在）

当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。当資料の正確性及び完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。

一時的な下落局面も乗り越えられる運用力

当ファンドは、株式市場全体が短期間に急上昇した際に、基準価額が上昇しにくい局面がございました。当ファンドのヘッジシミュレーションでも過去そのような局面がありましたが、一貫した投資哲学を貫き、確信度の高い銘柄に集中・長期投資することで下落局面を乗り越え、長期的には安定したリターンを獲得しております。市場全体の変動に左右されにくいリターンを獲得することで、“**長期的にプラスのリターンを獲得するためには、大きなリターンを上げることよりも、大きく下落しないことが重要**”をまさに体現しているのが当ファンドの実績です。

当ファンドのヘッジ・シミュレーションと運用実績
(2013年3月末～2020年7月10日)



下落前水準まで回復時の上位貢献銘柄

①2016年10～12月 トランプラリー後回復時
(2016年12月末～2017年5月末)

企業名	期間内株価騰落率
花王	26.0%
キーエンス	25.5%
ロート製薬	25.4%
リクルートホールディングス	25.2%
ソフトバンクグループ	15.9%

②2019年7～10月 FRB3回連続利下げ局面後回復時
(2019年10月末～2020年5月末)

企業名	期間内株価騰落率
キーエンス	28.9%
テルモ	19.2%
シマノ	9.4%
ユニ・チャーム	8.7%
リクルートホールディングス	2.7%

各局面でポートフォリオで保有する魅力を実現！

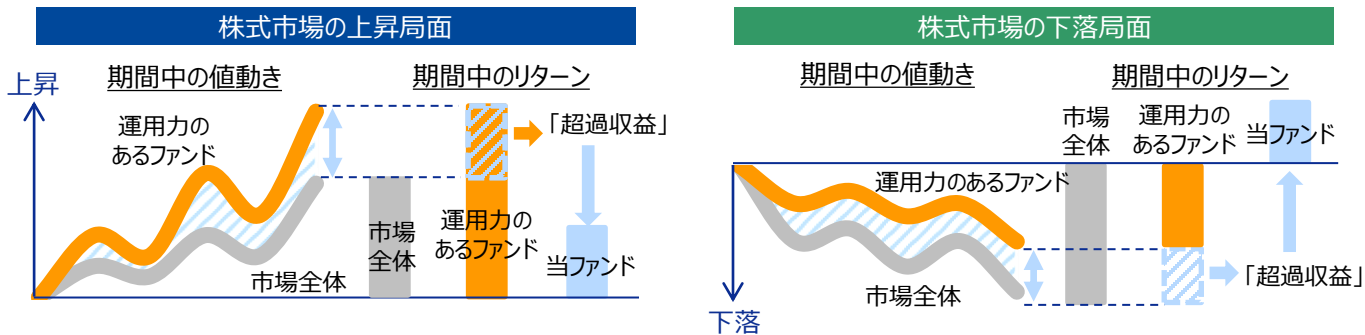
- ※ シミュレーションのデータは、当ファンドのマザーファンドであるスパークス・オールキャップ・ベスト・ピック・マザーファンド（以下、ベスト・ピック・ファンド）の基準価額をもとに、マーケット・ニュートラル運用（株価指数先物取引等の売建てによる株式ヘッジ）を適用した場合のシミュレーションです。当ファンドの信託報酬相当を控除しています。リバランス、ロールオーバー等、株価指数先物取引にかかる費用については考慮していません。
- ※ 当該シミュレーションは、ベスト・ピック・ファンドの過去の実績をもとにしたシミュレーションであり、当ファンドの実績ではありません。また、将来の運用成果等を示唆、保証するものではありません。
- ※ 当該実績は過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆、保証するものではありません。
- ※ 参考指数（TOPIX（配当込み））は当ファンドのベンチマークではありません。

出所： スパークス・アセット・マネジメント、FactSet Pacific Inc.（2020年7月10日現在）

当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。当資料の正確性及び完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。

市場の上昇局面でも下落局面でも運用力を発揮するスパークス

当ファンドでは、マーケット・ニュートラル運用を活用することで、市場全体の変動に左右されにくいリターンを獲得を目指します。マーケット・ニュートラル運用とは、この市場全体を上回る部分である「超過収益」に着目することで、市場の変動に左右されにくい安定的なリターンの獲得を目指す運用です。



当ファンドのリターンイメージを 引き算で表すと・・・

	運用力のあるファンド	市場全体 (TOPIX)	当ファンド (超過収益)
上昇局面	+8%	+5%	+3%
下落局面	-8%	-10%	+2%
	-8%	-5%	-3%

※ 運用成果が市場全体のリターンを下回る場合、損失となることがあります。

※ 上記は当ファンドの運用への理解を深めていただくためのイメージ図です。全てのケースに当てはまるものではなく、当ファンドの将来の結果をお約束するものではありません。

(ご参考)

当ファンドと同様の運用ノウハウを活用したファンドのパフォーマンス

(2008年3月27日～2020年7月10日)



中長期にわたってきれいな
右肩上がりの市場平均を
上回る超過収益！

100年に1度と言われた
リーマンショック時にも
超過収益を獲得！

当ファンドと同様の運用ノウハウ
を活用したファンドは、
過去上昇局面でも下落局面でも
超過収益を獲得！

※ 記載のデータは、当ファンドと同様の運用ノウハウを活用したファンドの過去の実績をもとに算出したものであり、当ファンドの実績ではありません。また、将来の運用成果等を示唆、保証するものではありません。

※ 基準価額は信託報酬控除後であり、分配金を非課税で再投資したものと計算しております。

※ 参考指数 (TOPIX (配当込み)) は当ファンドのベンチマークではありません。

出所： スパークス・アセット・マネジメント、FactSet Pacific Inc. (2020年7月10日現在)

当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社 (以下当社) が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書 (交付目論見書) の内容を必ずご確認ください。当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。当資料の正確性及び完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。

ファンドの目的

当ファンドは、主としてスパークス・オールキャップ・ベスト・ピック・マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）を通じて、日本の株式に投資するとともに、株価指数先物取引等を活用し、株式市場の変動リスクの低減を図りつつ、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行うことを基本とします。

ファンドの特色

- わが国の金融商品取引所に上場している株式の中から、『魅力的』と判断した銘柄に投資します。『魅力的』な銘柄とは、高い技術力やブランド力があり、今後グローバルでの活躍が期待出来、成長していく日本企業(新・国際優良企業)をいいます。

•ベンチマークや業種にとらわれず、『厳選』した少数の投資銘柄群に集中的に投資を行うことを基本とします。

※ 当ファンドは、ベンチマーク等を意識せず、弊社独自の調査活動を通じて厳選した少数の投資銘柄群に絞り込んで集中投資することとしているため、個別銘柄への投資において、当ファンドの純資産総額に対して実質的に10%を超えて集中投資することが想定されています。そのため、集中投資を行った投資銘柄において経営破綻や経営・財務状況の悪化などが生じた場合には、大きな損失が発生することがあります。

•原則として短期的な売買は行わず、長期保有することを基本とします。

- 当ファンドにおいては株式市場の変動リスクの低減を図ることを目的として、わが国の株価指数先物取引等の売建てによりヘッジを行います。

ファンドの資金動向や市場動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

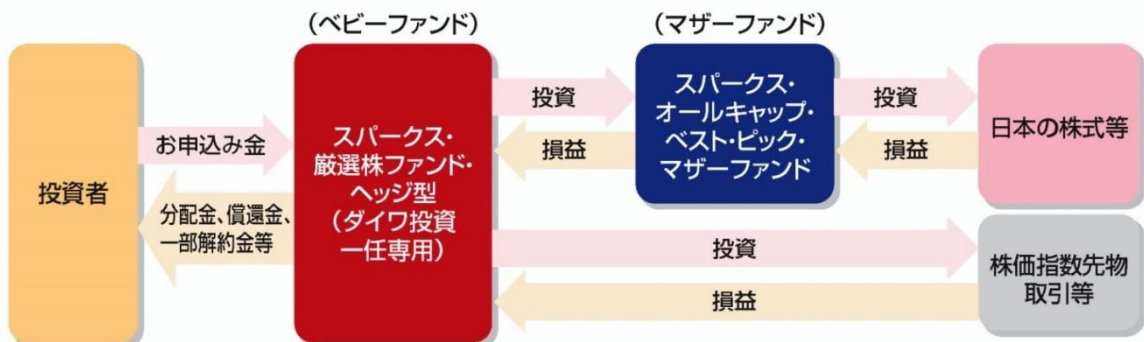
- 当ファンドは、投資者と販売会社が締結する投資一任契約に基づいて、資産を管理する口座の資金を運用するためのファンドです。

当ファンドの購入の申込みを行う投資者は、販売会社と投資一任契約の資産を管理する口座に関する契約および投資一任契約を締結する必要があります。

ファンドの仕組み

当ファンドは、ファミリーファンド方式※により運用を行います。

- ※ ファミリーファンド方式とは、投資者の皆さまからお預かりした資金をまとめてベビーファンドとし、その資金をマザーファンドに投資することにより、その実質的な運用をマザーファンドにて行う仕組みです。
- なお、当ファンドは、マザーファンドへの投資のほか、株価指数先物取引等の売建てを行います。



投資リスク

基準価額の変動要因

当ファンドは、マザーファンド受益証券への投資等を通じて、国内の株式などの値動きのある有価証券に投資するとともに、株価指数先物取引等を活用しますので、ファンドの基準価額は変動します。従って、投資者の皆さまの投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金と異なります。

株価変動リスク

一般に株価は、個々の企業の活動や一般的な市場・経済の状況、国内および国際的な政治・経済情勢等に応じて変動します。従って、当ファンドに組入れられる株式の価格は短期的または長期的に下落していく可能性があり、これらの価格変動または流動性に予想外の変動があった場合、重大な損失が生じる場合があります。

集中投資のリスク

当ファンドは、分散投資を行う一般的な投資信託とは異なり、銘柄を絞り込んだ運用を行うため、市場動向にかかわらず基準価額の変動は非常に大きくなる可能性があります。

株式ヘッジに伴うリスク

当ファンドは、国内の株式に投資するとともに、株式市場全体の変動の影響を低減することを目的として、株価指数先物取引等の売建てを行いますので、株式市場全体が上昇しても必ずしも基準価額が上昇するわけではありません。また、完全に株式市場全体の動きの影響を排除できるものではありません。マザーファンドの株式ポートフォリオの価格上昇の寄与が株価指数先物の価格上昇の寄与より小さい場合、または、マザーファンドの株式ポートフォリオの価格下落の影響が株価指数先物の価格下落の影響より大きい場合等には、基準価額が下落する可能性があります。マザーファンドの株式ポートフォリオの価格が下落し、株価指数先物の価格が上昇する場合、基準価額の下落幅が拡大することがあります。

信用リスク

- ・ 組入れられる株式や債券等の有価証券やコマーシャル・ペーパー等短期金融商品は、発行体に債務不履行が発生あるいは懸念される場合には価格が下がることがあり、また、投資資金を回収できなくなることがあります。
- ・ 当ファンドは、ベンチマーク等を意識せず、弊社独自の調査活動を通じて厳選した少数の投資銘柄群に絞り込んで集中投資することとしているため、個別銘柄への投資において、当ファンドの純資産総額に対して実質的に10%を超えて集中投資することが想定されています。そのため、集中投資を行った投資銘柄において経営破綻や経営・財務状況の悪化などが生じた場合には、大きな損失が発生することがあります。

その他の留意事項

●システムリスク・市場リスクなどに関する事項

証券市場は、世界的な経済事情の急変またはその国における天災地変、政変、経済事情の変化、政策の変更もしくはコンピューター・ネットワーク関係の不慮の出来事などの諸事情により閉鎖されることがあります。このような場合、一時的に換金等ができないこともあります。また、これらにより、一時的にファンドの運用方針に基づく運用ができなくなるリスクなどもあります。

※基準価額の変動要因（投資リスク）は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

- ・ 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ・ 収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりの方が小さかった場合も同様です。収益分配の支払いは、信託財産から行われます。従って純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

リスクの管理体制

委託会社では、投資リスクを適切に管理するため、運用部門ではファンドの特性に沿ったリスク範囲内で運用を行うよう留意しています。また、運用部門から独立した管理担当部門によりモニタリング等のリスク管理を行っています。

お申込みメモ

※大和証券でお申込みの場合

【購入単位】 最低単位を1円単位または1口単位として販売会社が定める単位

【購入価額】 購入申込受付日の基準価額

【換金価額】 換金申込受付日の基準価額から信託財産留保額を控除した額（1万口当たり）

【換金代金】 原則として換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。

【換金制限】 信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金申込には制限を設ける場合があります。

【購入・換金申込受付の中止および取消し】

金融商品取引所における取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込受付を中止することおよびすでに受付けた購入・換金申込受付を取り消すことがあります。

【信託期間】 2018年4月17日から2028年4月14日まで

※受益者に有利であると認めるときは、受託会社と合意のうえ、信託期間を延長することができます。

【信託期間】 次のいずれかの場合等には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、繰上償還となることがあります。

- 受益権の口数が30億口を下回るようになった場合
- 信託契約を解約することが受益者のために有利であると認めるとき
- やむを得ない事情が生じたとき 等

【決算日】 毎年4月15日および10月15日（休業日の場合は翌営業日）

【収益分配】 年2回、収益分配方針に基づいて収益分配を行います。

ただし、分配対象額が少額の場合等は分配を行わないこともあります。

【信託金の限度額】 2,000億円を上限とします。

【課税関係】 課税上は株式投資信託として取扱われます。配当控除の適用が可能です。

※ 上記は2020年4月末日現在のもので、税法が改正された場合等には、内容が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

お客様にご負担いただく手数料等について

下記手数料等の合計額については、お申込金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することができません。

【購入申込時】

■ 購入時手数料：ありません。

【換金申込時】

■ 信託財産留保額：換金申込受付日の基準価額に対して**0.15%**の率を乗じて得た額

■ 換金時手数料：なし

【保有期間中】（信託財産から間接的にご負担いただきます）

■ 信託報酬：純資産総額に対して**年率1.243%（税抜1.13%）**

■ その他の費用等

- (1) 監査報酬、投資信託説明書（目論見書）や運用報告書等の作成費用などの諸費用（純資産総額に対して上限年率0.11%（税抜0.10%））
- (2) 有価証券売買時の売買委託手数料等は、ファンドの運用による取引量に応じて異なりますので、事前に料率や上限額等を表示することができません。

ファンドの関係法人について

- 委託会社 スパークス・アセット・マネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第346号
 （加入協会）一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会 日本証券業協会
 一般社団法人第二種金融商品取引業協会
 信託財産の運用指図、受益権の発行等を行います。
- 受託会社 三井住友信託銀行株式会社
 委託会社の指図に基づく信託財産の管理等を行います。なお、信託事務の一部につき日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社に委託を行います。
- 販売会社 下記一覧参照
 ファンドの受益権の募集・販売の取扱い、一部解約請求の受付、一部解約金・収益分配金・償還金の支払いの取扱等を行います。

販売会社		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
大和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第108号	○	○	○	○

<特化型に関して>

当ファンドは、一般社団法人投資信託協会「投資信託等の運用に関する規則 信用リスク集中回避のための投資制限の例外」を適用して特化型運用を行います。そのため、一般のファンドにおいては、一の者に係るエクスポージャーの投資信託財産の純資産総額に対する比率として10%を上限として運用を行うところを、当ファンドにおいては、35%を上限として運用を行います。

〔お問い合わせ先〕 スパークス・アセット・マネジメント株式会社

ホームページ <https://www.sparx.co.jp/> 電話番号：03-6711-9200（受付時間：営業日9：00～17：00）